

飛騨市の鳥獣害対策を考える



イノシシ被害が顕著 サルの目撃増加

飛騨市は総面積のおよそ93%を森林が占める自然豊かな地域です。私たちは、自然の恵みをいただいたり、身近な森林を里山として手入れしながら豊かな暮らしを営んできました。

豊かな自然環境は、クマやカモシカをはじめとする多くの野生動物も養っており、先人は里山付近に緩衝帯を設け、こうした動物たちとも共存を図ってきました。

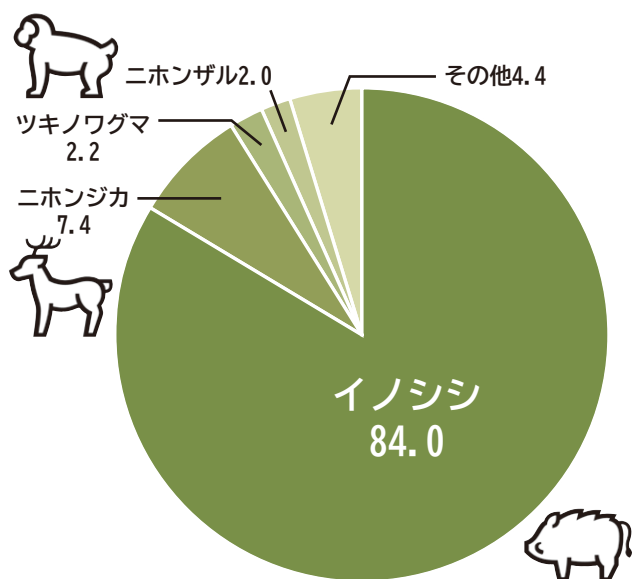
しかし、人と動物とを分け隔てていた緩衝帯が荒れ、互いの生活圏の境界があいまいになることで、野生動物が里山や人の生活圏へ姿を見せることが目立つようになってきました。

市内では、特にイノシシによる農地や畦畔、水路などの掘り起こしや農産物の食害といった被害が全域で広がっています。また、宮川町や神岡町の一部ではサルの目撃例が増え、農作物や果樹への被害が生じているだけでなく、地域住民への危害も懸念されています。シカ目撃、捕獲数も急増しており、今後の被害増加が心配されています。

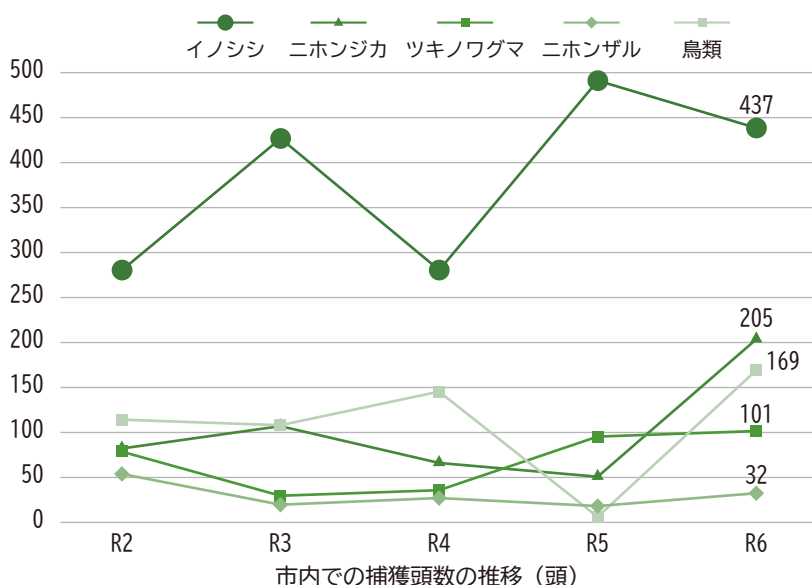
今回は、鳥獣被害を防ぐために立ち向かう人や生活を守る方々取材しました。



イノシシが掘った大きな穴



市内の農作物に対する鳥獣別被害額割合 (%)



市内での捕獲頭数の推移 (頭)

みんなで取り組む 鳥獣害対策

サルを目撃例、農業被害が増えている神岡町下小萱地区では、住民有志の皆さんが集まり、専門家を招いた鳥獣害対策の勉強会や野外調査などを実施。飛騨猟友会神岡支部の皆さんとも連携し、地域住民の方に呼びかけながら活動をしています。



鳥獣害対策に向けた地図作りの様子



「猿・猪・カラス駆逐隊」主要メンバーの皆さん
左から柏当信幸さん、小林栄二さん、丸亀貞雄さん(代表)、田近浩之さん



「飛騨猟友会神岡支部」主要メンバーの皆さん
左から松葉廣さん、堀本昌嗣さん(支部長)、水口巴千男さん、山下喬さん、植村孝嘉さん

地域でできることを

7～8年前からイノシシ被害が増えて、地区で団体をつくって電気柵を設置したりしていました。ただ一昨年に高校生がサルに襲われたり、お年寄りの方が大事に育てた野菜を取られてがっかりする姿を見て「何とかしよう」と声を掛け合って8人が集まりました。

昨年11月、専門家を招いて効果的な対策を聞いたり、周辺を歩いてどんな木があるかや荒れ地がある場所、目撃例などを共有できる地図を作りました。

これをもとに土地や木の所有者に収穫を早めたり、木や草を伐ってもらうようお願いしてきました。高齢化や過疎で田畑を管理できる人が減り、森林ようになった所もあったので、補助事業で木や草を刈ってもらいました。

メンバーは会社員が大半で活動は大変ですし、対策は簡単ではないですね。そんな中、捕獲などで猟友会や市の方が一緒に対応してくださり、ありがたいです。

被害のある人やない人、被害のある場所とない場所で、対策に対する思いにそれぞれ「温度差」があるんですが、個人の取り組みでは限界があります。地域で連携してこそ効果が上がります。このように水際で何とか止めている現状を知っていただき、地域で協力し合って対策ができるよう呼びかけていきます。

連携で効果的な対策を

神岡支部のメンバーは現在35名です。市や地域の方々からの駆除の依頼を受けたり、日々わなを使った鳥獣害対策にあたっています。所属隊員のうち、勤めがある人は毎日のわなの見回りや急な依頼に対応することが困難ですし、緊急時の場合は身軽に出動できる限られたメンバーになっている一方で、猟銃の所持や使用等のルールが昨今厳しくなってきたのが現状です。

最近問題となっているサルは、昔はいなかったんですよ。個体数が増えて、群れが分かれてこちらへ来たんでしょう。繁殖力がすごくて、周りに食べ物もあるから増えてしまっただけ。もう人間を恐れず、逃げないです。

捕獲には、動物の行動パターンを知ることが大事。目撃情報などがあつたらすぐに共有してもらえるとありがたいです。昨年10月にサル用の捕獲檻を設置したので、今年はその成果を見守ることになります。

動物は身を隠したいので、身近な荒地の草や木を刈ると効果が全然違います。また、軒先に食べ物を干したりしないことも大事ですね。爆竹を使った追い払いも、みんなが同じ時間に一齐にやると音が大きくなるし、効果が広範囲になって、より遠くへ追い払えるんです。

住民の皆さんは目撃した獣類の出没場所、時間帯、さらには侵入経路等の情報提供をお願いします。新しい情報こそが、より確実な捕獲・駆除につながります。



鳥獣害対策には3本の柱があります

①②は「自助」のために各自が取り組むことが大切です。③は狩猟免許を持つ狩猟者にしか行うことができません。地域や猟友会等の関係団体との「共助」、そして行政がおこなう「公助」にそれぞれが取り組みながら協力することで、鳥獣被害を防ぐことができます。

飛騨市鳥獣被害対策サポートセンターにご相談ください

今回は、実際に飛騨市鳥獣被害対策サポートセンターの支援を受けた古川町の小林卓長さんの事例をもとに、家族で相談者の小林淳子さんと、鳥獣管理士の資格をもつセンターの原田大輔さんに話をうかがいました。

■どのような被害に遭いましたか？

小林：昨年イノシシが初めて自宅の敷地内に入ってきたんですね。庭先のカキの木やアジサイの根元を掘り起こしました。広さ2畳分、深さが1mほどもあるような大きな穴を掘られたり、ひどい被害を受けてびっくりしました。畑でも被害が出ました。



現場を案内する小林卓長さん

■どのように相談しましたか？

小林：各戸に配布されていたセンターのチラシを見て電話をしました。まさか自分に必要になるとは思っていませんでした。すぐに原田さんが来てくれて、現場を確認してもらい、まずは鳥獣撃退器を1週間借りて設置しました。音と光が出る器械で、扱いはとても簡単でした。



鳥獣撃退器

■効果はどうでしたか？

小林：効果はあったんですが、出沒する別の場所に器具を移すと、また元の場所で被害が出るなどイタチごっこのようでした。電気柵を設置したらそれ以上の被害は出ませんでした。よそへ行っただけかも。もっと簡単な撃退器をみんなに貸し出して、地域全体で対策ができると良いかもしれません。

■もっと簡単にできる対策はないんでしょうか？

原田：柵の設置は本当に大変なので、周辺にまいて効く忌避剤なんかがないかという相談はよくあります。とにかく鳥獣を寄せない、入れないというのが対策の鉄則。

敷地が広い場合は、やっぱり防護柵や電気柵の設置と、撃退器の設置です。それがダメなら捕獲ということになります。

小林：原田さんが、その後も確認に来てくれたのはありがたかったです。

■「特効薬」的な対策はないですか？

市鳥獣被害対策サポートセンター
原田大輔さん

原田：動物ごとの生態や被害を受ける土地ごとに条件に違いがあるので、その場で解決というのはなかなか難しいです。また、人によっても「温度差」があるんです。被害を受けて怒っている人、あきらめている人、作物を作っていない人など思いはそれぞれ。ただ、話を

するだけでも良いのではと思います。「畑はもうやめようかな」と落ち込んでいたお年寄りの方もみえましたが、話してすっきりした様子でした。話を聞くことで気持ちが楽になるお手伝いもできたらと思います。

小林：解決には至らなくても、話を聞いてもらって、「大変でしたね」と言ってもらえたひと言でも、何か救われるような気がしましたね。

原田：ただ、一人で「どうしよう」と悩んでいても進まないです。動物もいろいろなので、それぞれに合った勉強や対策が必要になります。センターの取り組みを知ってもらってぜひ活用してほしいです。そして、地域の皆さんと一緒に知恵を出し合っていけたらいいですね。



相談者の家族 小林淳子さん

困ったとき、迷ったときは一人で悩まず、まずはご相談ください

飛騨市鳥獣被害対策サポートセンター ☎080-2640-0924

「鳥獣による被害を受けた。どんな対策をすればいいの?」「被害の対策をしたいけど、どんな動物が来ているかわからない」「防護柵や電気柵を設置したいけど、何か良い補助制度はある?」「集落全体で対策をしたいけれどどうしたらいいの?」など、さまざまなご相談に対応しています。